

第1回高知県水道ビジョン策定検討委員会

■開催日時：平成30年8月6日（月）14時00分～16時50分

■開催場所：高知城ホール4階 多目的ホール

■出席者：藤原拓委員長、宮崎正信委員、片山隆文委員、宮内潔委員、榎尾正委員、西村城人委員、山崎明仁委員、橋詰徳幸委員、高橋修一委員、里見浩志委員、川島義之委員、谷崎清委員、秋森博委員、宮田憲一委員、安井幸一委員、尾崎正明委員、田村正和委員、岡田敬親委員、宮本彰一委員、森田貞男委員、小松敏宏オブザーバー

■配布資料：

- 1) 次第
- 2) 基調講演資料 新水道ビジョンと水道法改正案
- 3) 資料-1 高知県水道ビジョン策定検討委員会設置要綱、出席者名簿、座席表
- 4) 資料-2 委員会の取り組み
- 5) 資料-3 作業部会の取り組み方針
- 6) 資料-4 南海トラフ地震の被害想定と事前対策について
- 7) 参考資料-1 新水道ビジョン 平成25年3月
- 8) 参考資料-2 広域的水道整備計画及び都道府県水道ビジョンについて
- 9) 参考資料-3 平成27年度 高知県の水道
- 10) 参考資料-4 高知県水道整備基本構想 昭和62年3月

■次第：

1. 開会

2. 【基調講演】「新水道ビジョンと水道法改正案について」

3. 議事

- 高知県水道ビジョン策定検討委員会設置要綱
- 委員長の選任について
- 議題
 - ・委員会の取り組みについて
 - ・作業部会の取り組み方針について
 - ・南海トラフ地震の被害想定と事前対策について

■議事録：次頁記載（資料説明 略）

<資料-2について>

(藤原委員長)

事務局の説明が、ビジョンの話から具体的な作業の話まで多岐にわたっていますので、整理して議論を進めたいと思います。

高知県水道ビジョン策定検討委員会で何をするか、という部分をまず皆様方で共有、決定した上で細かい作業の話に移ったほうが良いと思いますので、その部分について最初に議論したいと思います。(資料-2-16頁参照)

宮崎委員より、国全体としての新水道ビジョンと水道法の改正案ということで大きな方向性の話を頂きまして、この法案が通って水道法の改正案が実現すると、新水道ビジョンの議論の方にも大きく影響を及ぼすというお話を頂きました。

そういう意味で審議内容の中で、現状把握や課題の抽出は高知県の現状、高知県の市町村の事業体の現状をお互いにまず知り、そして専門委員の皆様にも知って頂くという上で非常に重要だと思います。

一方で理想像の設定、高知県の水道のあるべき姿の設定については、宮崎委員にご説明頂いたような新水道ビジョンや、水道法の改正案などの内容を市町村委員のみなさまにご理解を頂いた上で、県内の現状を踏まえて、どう実現していくのか議論をしていく必要があると思っています。

新水道ビジョンで安全・持続・強靱という3つの大きな方針が示されていますが、高知県においても、この3つの方針を踏まえて検討を進めていくことで事務局案としても間違いはないという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。事務局案としても高知県のビジョンは安全・強靱・持続の観点で行えたらと考えています。

(藤原委員長)

委員の皆さま、高知県のビジョンは、安全・強靱・持続の観点で検討を進めることで、よろしいでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

安全・強靱・持続の観点で検討を進めることを共通認識とさせて頂きました。

実際に実現方策の設定については、理想に到達するまでに、スタートのレベルがおそらくそれぞれの市町村によって異なると思いますので、資料-2-16頁①、②に記載のような各水道事業体の現状の把握であるとか、課題の抽出を踏まえて具体的にどう実現していくかについて、高知県の現状を踏まえ、専門委員の方にもアドバイスを頂き、一緒に県内の市町村の皆様と専門の皆様とでよりよいビジョンを作っていくという形で進められたらと委員長としては考えていますが、いかがでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

それでは、どのようなご質問でも結構ですので、委員の皆様よりご意見等頂戴できればと思いま

す。よろしくお願ひ致します。

(宮崎委員)

それぞれの水道事業体のビジョンと、県のビジョンとの関連性を考えないといけないと思っておりますが、策定されていない事業体が多いのであれば、課題の設定や課題の抽出から考えていかないけないと思ひますし、そういった状況から、これからワーキングで議論するのでしょうか。

(藤原委員長)

事務局の方で各市町村の水道事業体のビジョンの策定状況を整理されていたら、お答え頂きたいと思ひます。

(事務局)

昨年度、高知市で見直ししており、南国市や須崎市、黒潮町、いの町など、約 1/3 の事業体で策定されております。一方で、新水道ビジョンを踏まえて改めてビジョンを見直すように通知がありますが、新水道ビジョンとして整えたものは 2 から 3 程度です。

(藤原委員長)

ありがとうございます。宮崎委員、何かありますでしょうか。

(宮崎委員)

そうであれば、それぞれの水道事業体の考えをもっと出して頂かないと県のビジョンに反映や整合をとるのが難しいので、ワーキングで十分話し合っ頂ければと思ひます。

(藤原委員長)

はい。ご意見ありがとうございます。作業部会の方で市町村の方から十分なご意見を頂いた上で、県のビジョンに反映させて下さいというご要望かと思ひます。課題抽出・現状把握を中心に、作業部会を考えていたかもしれませんが、県のビジョン策定に向け、各市町村からのご意見を頂いて、反映していくことを含めて作業部会で実施すれば、より市町村の意見が反映された県のビジョンになると思ひますので、市町村の皆さまにとっても望ましい方向かと思ひます。これについては市町村の皆さま、いかがでしょうか。作業部会でそういったことのご意見を出して頂いて、県のビジョンに反映していくという方向性について、ご意見ございますか。

違う進め方の方がよいという方はいらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

それでは事務局の方で、そのような形で作業部会を進めて頂くようお願いできればと思ひます。

(事務局)

承知致しました。

(藤原委員長)

他にご意見ございますでしょうか。

(片山委員)

事務局にお伺ひしたいのですが、資料-2-15 頁のスケジュールの中で第 2 回委員会の議題の中に課題の抽出方法の決定、水需要の見通し方法の決定とありますが、先ほどの説明の中ではもうすでにこうした内容が入っていたように思ひますが、少しタイミングが違うのではないかと思ひます。

こういった検討の場の一番重要なポイントは、課題に対してどのように分析するか、どのような目標を設定するかを検討すべきだと思いますが、スケジュールの中でどのようにお考えなのか、お伺いできたらと思います。

(事務局)

水需要に関しては、本編の資料最後の方に掲載させて頂いておりますし、課題についても前倒しできるものは前倒ししていく方が良いかと思っております。できる範囲で前倒ししていくスケジュールでいきたいと考えております。

水需要の見通しの方法決定が第2回委員会の議題として挙げていたのは、計画普及率など細かな市町村の意見を聞きながら、策定したいということもあり、ここには第2回と記載していますが、おおまかなところでは今回の第1回がその内容になっています。

(藤原委員長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

本日は第1回目ということもありますので、大きな方向性を共有した上で今後、細かい具体的な話を進めていく方が、手戻りがなくて済むかと思っております。

大きな根本的部分でも結構ですので、こういったことをいれるべきだとか、ご意見頂ければと思います。

事務局に質問させていただきます。こういったビジョンを策定したら、次は具体的に実行していくという流れになると思いますが、ビジョンの実現に向けてどのように実行されるか、PDCAを回すような仕組みづくりが必要になるかと思っておりますが、フォローアップ委員会を設けるなど、細かい話でなくても結構ですが、この委員会で設けたビジョンを具体化していく方法について、少し補足説明をして頂いてよろしいでしょうか。

(事務局)

ビジョンのフォローアップは大事なことだと考えております。ただ、まだ始まったばかりで、具体的な案はないですが、第2回、第3回にかけてフォローアップの仕組みを検討出来たらと思っております。策定後も引き続き状況確認を行い、場合によってはビジョンの見直しも考えていけるようなフォローアップを考えていきたいと思っております。

(藤原委員)

ありがとうございます。初めに事務局の方から、この委員会は広域化ありきではないとご説明がありましたが、できるところから広域連携を進めていきたいと思いますという話もあります。そういう意味で、こういったビジョン策定の委員会に多くの市町村事業者のみなさまに一同に介して頂いて直接意見交換をする、あるいは作業部会を通じて一緒に高知県のビジョンを作り上げていくということがまさに連携の第一歩につながると思います。そういう意味で是非、市町村の方からも意見を頂戴できたらと思いますがいかがでしょうか。

先ほど、技術者の数でも高知県の中で圧倒的に多くの技術者をかかえておられる高知市さんも来て頂いておりますし、あるいは職員数の観点で非常に厳しい状況にある市町村の事業者の方にも来て頂いておりますので、よろしければ高知市の榎尾委員、そして町村ということで越知町の岡田委員から何かご意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

(槇尾委員)

高知市の槇尾です。広域連携の取り組みの一つとして平成 28 年から近隣市町村の水質検査、水質管理を始めております。現状は増やすことはできないですが、水質検査センターにテコ入れしており、改善に向けて努力しています。さらに、今年から人材育成・技術継承を目的とした高知市職員に研修制度を設けて、研修を行っています。他の事業体にも一緒に参加して頂いて、年に数回、研修を開いています。なかなか市町村の現状の設備についてはわからないので、今回のビジョンの策定の中で、公になっていくと、もっと連携できるのではないかと考えております。

(藤原委員長)

ありがとうございました。貴重な情報提供を頂きました。越知町の岡田委員はいかがでしょう。

(岡田委員)

当町は、皆さんがご承知のとおり、高知県で最小規模の事業体でありまして、上水道 1、簡易水道 6 の合計給水人口が 5,000 人を下回っております。

現在は会計方式の変更に取り組んでいる所ですが、ハード面につきましては、狭小な地形などによる地理的な制約も多いため、なかなか進んでいないのが現状です。市町村さんとの広域的な連携ということになりますと、現在は高知市に先導をとって頂いて、職員の研鑽のための研修会を行っておりますが、先ほど申しましたように、特に中山間地域の事業体間ではなかなか広域連携といたしましても、現在のところは根本的な方策は考えられていない状態となっております。

また、多くの市町村さんも同様ではあると思いますが、慢性的に職員の数が不足しており、技術の継承も十分でない状況で日々の仕事で手一杯です。加えて近年の異常気象による災害への対策とか南海トラフ地震についても当町としましては全く手をつけられていない状況で、もし被災した場合には、一事業体での対応は極めて困難な状況となっております。

広域化を考えますと、広域的な連携が必要になると考えております。

(藤原委員長)

小規模な事業体のご苦労されている点について、教えて頂きましてありがとうございました。

(宮内委員)

参考意見までお話をさせていただきますが、協会ではいろいろな広域化の事例が集まっており、協会のホームページに情報共有のためのプラットフォームを作りまして、広域化の事例を挙げておりますので参考にして頂けたらいいかと思います。例として私の住んでいる奈良県でも、自然的、社会的条件によっていろいろな地域があり、北部の県営水道供給エリア、中間部の五条・吉野エリア、南部山間部の簡易水道エリアの 3 エリアに区分され、それぞれでできることから広域化を進めていくと取り組まれています。このうち簡易水道エリアでは、広域的な共同管理を委託する受け皿となる組織の設立が、課題となっております。それぞれ特色を持った地域で、何ができるか考えていくことが第一歩だと思います。

(藤原委員長)

貴重な情報を頂きまして、ありがとうございました。他に何かご意見ございますでしょうか。

(安井委員)

香美市におきましては、今年度から管路を除く全ての水道施設の維持管理業務を個別委託として、

3カ年の民間委託を開始いたしました。これにつきましては、試行を平成27年から行いまして、状況をみてきたわけですが、水道法の改正もにらみ、本格的に本年度から3カ年行うことを決定いたしました。これも先ほど宮崎委員からお話もあったように、水道法の改正があれば施設の管理についても、本市として最終的には水道に限らず上下水道で管理するというようなことを考えております。広域連携では、流域下水道において高知市などと連携しており、将来的には水道についても自治体単独の運営は厳しいため、広域連携をしていきたいと思っております。

(藤原委員長)

貴重なご意見ありがとうございます。民間委託に取り組んでいらっしゃるという貴重な情報、そして今後の連携、広域連携を進めて頂きたいという将来の方針についてもご意見を頂戴いたしました。どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。

そうしましたら、具体的なところはまた、これから議論ができるかと思っておりますので、一つ目の議題である委員会の取り組みといたしまして、新水道ビジョンと水道法の改正案を踏まえて、安全・持続・強靱の3つの観点から理想像を設定していくということ、そして高知県内の事業者のみならずの実情を踏まえた実現方策の設定をしていくということ、作業部会においては現状把握あるいは課題の抽出の作業に加えて、各市町村の事業者の方より高知県の水道ビジョンに入れていくべき内容についてのご意見を、積極的にインプットして頂くというところを今回の委員会の取り組みの大きな方向性として決めてはどうかと考えておりますが、皆さまいかがでしょうか。そのような大きな方向性でよろしいでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

はい。ありがとうございました。それではこのような方針で、委員会を進めて頂くように事務局よろしくお願い致します。

<資料-3について>

(藤原委員長)

先ほどの議題の中で、この委員会を進める大きな方向性について議論頂いて、ある程度共有させて頂きましたが、その中で安全・持続・強靱の3つの観点を踏まえてビジョンを作っていくということが共有されたと認識しております。

そういう観点でいきますと今回の作業部会の取り組みでは、耐震化対策の強靱の部分とアセットマネジメントの持続の部分のご説明はありましたが、安全の部分のご説明がなかったと思っておりますので、この安全については適正な施設管理体制等を、より広域的に連携をしながら進めていくというような取り組みも今後十分に検討できるのではないかと思いますので、今回提示頂いた資料に加えて、安全の観点も入れた形で作業部会では議論して頂ければと思いますが、皆さまいかがでしょうか。

先ほどの基本方針に加えて、作業部会でもそういったことも含めて議論を進めて問題ございませんでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

事務局は、そういった方針でお願い出来ればと思います。最初に共有した大きな方向性について、常に委員の中で確認をしながら進めていくことで、議論が発散したり、手戻りがあつたりしないということになると思いますので、これから資料を作るときに3つの柱「安全」、「持続」、「強靱」の、どの観点にあてはまる議論なのかというのがわかるような形で作って頂けるようにご留意頂けたらと思います。

今回は強靱と持続の部分について、丁寧にご説明を頂いたかと思いますが、これにつきまして皆様からご意見等頂戴できればと思います。よろしくお願い致します。

まず、耐震化の強靱の部分について、ご意見等あればお願い致します。

実際にこういった対応をしようと思うと財政的な観点での制約というのが、それぞれの市町村毎にご事情も異なると思います。全体のこの委員会の場でパッケージとして、すべてできるできないというのなかなかご意見を出しにくいかと思います。

そこで、作業部会の方で圏域毎に議論を頂く中で、メニュー出しとして、事務局の方でかなり細かい情報を出して頂いていますので、これらをたたき台としながら、各圏域での作業部会でそれぞれの市町村のご事情も踏まえながら、闊達な意見交換をして頂くというような方向性はどうかと思いますが、何かご意見ございますでしょうか。

(片山委員)

強靱に関しまして、資料-2の中でも大阪北部の地震と平成30年7月豪雨の話が載っていますが、強靱化とは当然耐震化ということにこれまで意識は強くもたれたわけですが、この豪雨の災害・土砂災害も多発するような昨今でございますので、その辺についても高知県の特に山間部を抱えるようなエリアでは、ある程度これらに対応するためにはどうあるべきなのか、先ほど浄水場が豪雨で機能を失ったという事例のご紹介がありましたが、その点も含めて考える方がいいと思っています。

(藤原委員長)

ご意見ありがとうございます。そのあたりの状況も市町村毎に地理的な状況も異なると思いますので、作業部会の中で地震の観点と土砂災害等の観点を含めまして、災害全般に対して強靱な水道システムを検討していくという大きな方向性について、ご意見頂いたかと思いますが、いかがでしょうか。細かいルールについては作業部会でやって頂くとして、大きな方向性としてはよろしいでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

ありがとうございます。このあと、高知県の南海トラフ危機管理対策課の方からも被害想定等説明を頂きますので、そちらの情報提供も踏まえて各作業部会で検討頂ければと思います。

それでは、持続のアセットマネジメントについてのご説明もございましたが、こちらについて何か意見等ございますでしょうか。

こちらについては、特にスタッフの方も少ない事業体において、現状把握するということも非常に重要なスタートになるかと思っています。それぞれの事業体のご事情を踏まえて、各作業部会でご

検討頂くということで、大きな方向性の共通認識は、この委員会で確認した上で、作業部会で細かい話を進めるということで、いかがでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

それでは、方向性としてはそういったものの導入の重要性というものをこの委員会で共有認識として持って、作業部会の方で各事業体の個別事情も踏まえて、具体的な検討を進めていくということによろしいでしょうか。

(委員一同)

了承。

(藤原委員長)

ありがとうございます。私の方から事務局の方へ質問させて頂きたいのですが、作業部会は基本的には保健所単位とした圏域で行なっていくということですが、先ほど香美市から下水道で実施している香美市、南国市、高知市との連携も考えていますというようなお話もあったかと思います。

特に小規模の自治体になりますと下水道事業だけ、水道事業だけ、ゴミだけといった個別の事業だけで分けている余裕はないということで当然、上下水道の連携もそうですし、その他ごみとの連携も含めて、市民サービスという観点で統合的に管理をしていくという方向性も出てきておりますので、そういう観点で下水道の方で連携ができていいるなら、圏域で水道の方も検討するというような意見が出てきても、もっともな話かなとお聞きしていたところでございます。

そういう意味で、作業部会としては事務局のご提案で、圏域を進めるということですが、広域連携の在り方としては作業部会の圏域でしか連携してはいけないということではなくて、それぞれの市町村のご事情を踏まえて、柔軟な連携も可とするということによろしいですね。

(事務局)

はい。問題ありません。

(藤原委員長)

ありがとうございます。それでは他にございますか。

(宮内委員)

今回のビジョンにつきましては、水道に関する指標値（PI）がいろいろ上がってはいますけれども、長期ビジョンとして理想像を示すだけでなく、計画期間が10年ということですから、10年ほどの程度改善するとか具体的な目標値の設定はされるのでしょうか。

(事務局)

理想像については設定しますが、数値目標を設定すべきかどうかはこの場で検討したいと思っております。設定する前はこういった指標にするのか事務局から案を出して考えていきたいと思っております。今のところどちらで行きたいというのは事務局としては持っていません。

(宮内委員)

ビジョンの策定は県民の方へのPRにもなりますので、その内容をできるだけわかり易く伝えることが大切という意味で言えば、数値目標があった方が当然わかりやすいと思います。

(事務局)

積極的に検討させていただきます。

(橋詰委員)

先に目標値を決めるのであれば、何ができるか何ができないかと整理することが一番肝心ではないかと思います。その中で経営の観点から支払い能力があるか、自己資金能力があるか、その辺も踏まえて、ある程度詳細な資料をまとめて頂いてその中で話し合いということをお願いしたいと思っています。

(事務局)

具体的な案をもって検討できるように準備致します。

(安井委員)

事務局に聞きたいのですが、香美市は経営戦略を策定しておりまして、それとの関連性はどのようなのでしょうか。

(事務局)

県の経営戦略の方は市町村振興課が所管となっており、市町村振興課と連携して、どういった対応ができるか検討していきたいと思っています。

既に策定済みということであれば、できるだけ活用して、見直しが必要であれば随時確認し、香美市さんの方で理想となるような考え方を考えていきたいと思っています。

(安井委員)

経営戦略では、10年の期間を設定し、既に香美市の計画として策定しております。今回の水道ビジョンは経営戦略を踏まえたものを考えていかないと、特に経営戦略は財政的な面を重視して経営指標に基づいて行っておりますので、その点を十分に考慮した水道ビジョンでないと実現的なものにならないと思います。

(藤原委員長)

ありがとうございました。非常に重要なお指摘かと思っておりますので、各市町村から特に経営の観点を含めたご意見を収集整理して頂いた上で、皆様とともに作り上げるようなビジョンになるように事務局の方で運営をお願い致します。

<資料-4について>

(藤原委員長)

応急復旧の事例などを次回委員会で示して頂きたいです。

(事務局)

承知しました。

以上